

# 令和6年度教育活動方針

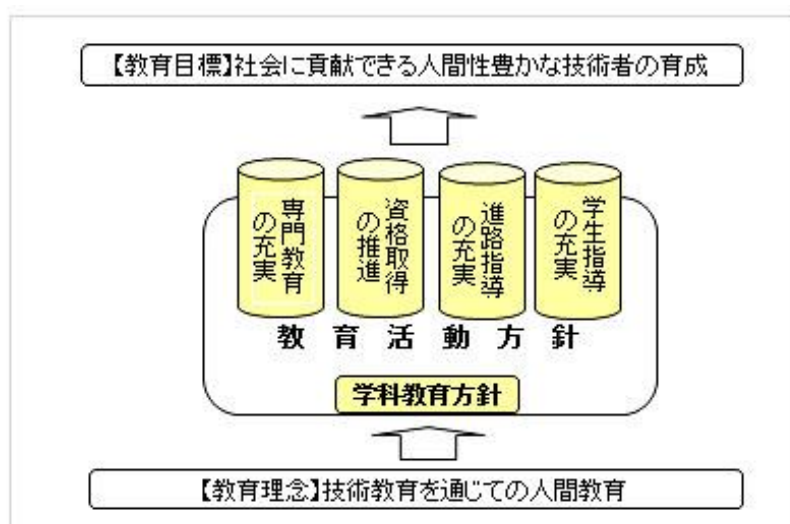
令和6年4月1日  
岡山科学技術専門学校  
校長 大月 秀之

## I 教育理念

「技術教育を通じての人間教育」

## II 教育体系

岡山科学技術専門学校では、専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動方針の柱とし、社会に貢献できる人間性豊かな技術者の育成を目指している。併せて教育活動を継続的に改善するため、PDCA サイクルを活用している。基本的な流れとしては校長の定める教育活動方針及び学科で作成する学科ガイドブック(Plan)を基に、教育活動を実施(Do)、年度末に自己点検(Check)を行い、次年度の教育活動方針に反映(Action)させるという構成となる。PDCA サイクルの要となる自己点検は、教職員に対するアンケート方式で毎年末に行っており、令和5年度の結果は3ページの「V(参考資料)令和5年度教育活動方針に従った評価項目の達成及び取り組み状況」にまとめた。



## III 令和5年度教育活動方針の概要と結果

### (1) 令和5年度の教育活動方針の概要

長く学校教育に影響を与えたコロナ禍により、評価が低下している項目が多かったが、令和5年度に感染症法上の分類が変更され収束を見込める状況となったので、科技専として重要と考えている分野を重点的に改善することを目的に、教育活動方針を決定した。特に力点を置いたのが以下の3分野である。

一つ目が「6S管理の徹底」である。令和5年度においては全教職員で教育環境の整備に徹底して臨みたい。併せて、躰教育の一環として挨拶などの社会人マナーの徹底も図りたい。

二つ目が「留学生の指導・支援の充実」である。必ずしもコロナ禍に起因するわけではないが、日本語でのコミュニケーションに問題がある留学生が増えている。日本語学科を設けている学校の特徴を生かし、学内連携による日本語教育の充実を行いたい。

三つ目が「学生確保」である。留学生受験者の大幅減少はコロナ禍に起因する部分が多いが、日本人受験者も減少している。人事、設備を含め、より魅力的な学校とすることを最終目標に、短期的にはオープンキャンパスの内容を充実し、学生確保に努めたい。

以上3点を最重点課題とし、コロナ以前のレベルを超えることを目標に改善を目指し、キーワードは、「レベルアップ」とした。

## 重点項目

- 1 6S管理の徹底  
教室・実習室の清掃強化に努める。  
挨拶等の社会人マナー（喫煙を含む）などの躰教育に努める。
- 2 留学生の指導・支援の充実  
日本語能力の向上とともに、教育方法の改善を図る。
- 3 学生確保  
オープンキャンパスの充実を図る。

## (2) 結果

コロナ禍の収束により社会情勢は落ち着きを見せ、学校活動もほぼ正常化した。計画していたすべての学校行事を行うことができ、資格取得も当初の目標を満たし、就職活動も順調に推移したことに加え、オープンキャンパス歩留（OC参加からの出願割合）も向上し、工業専門課程の入学予定者数も日本人学生を含めてコロナ前の水準まで回復した。これらのことが科技専全体の活性化をもたらしており、令和5年度の学校評価は、重点項目はもちろん、ほとんどの評価項目で向上し、これまでにないほどの高評価となった。コロナ禍が学校運営や教育活動に与えていた影響の大きさを改めて実感するとともに、今回の評価を学校の実力として定着させることを念頭に令和6年度の教育活動方針を考えたい。

## IV 令和6年度教育活動方針

令和5年度の評価は大きく向上し、肯定的な回答の割合が100%となった項目もあった。この高評価を科技専の標準的な状態とするためには、評価が低い項目を強化することが必要と考え、改めて内容を確認した。その結果、令和5年度の重点目標であった3分野について、大きな成果はあったが、一部の項目についての評価が相対的に低いことや改善の余地があることが明らかとなった。教育活動方針として異例ではあるが、令和6年度も同分野の項目の改善に力を注いだ教育活動を目指したい。

一点目が科技専教育の根底をなす「6S管理の徹底」である。全般に教職員の評価は高かったが、社会人マナーの指導を強化することが必要だと感じている。

二点目が「留学生の指導・支援の充実」である。この中では日本語能力向上に向けた指導と、研修の項目の評価が低かった。日本語学科を設けている科技専の特徴を生かし、工業専門課程を含めた学内連携・長期計画による日本語教育の充実と教員研修に力を入れたい。

三点目が「学生確保」であるが、こちらにも他に比べて評価が低い項目があった。私立学校にとって学生確保は最重要課題であることを念頭に、科技専の魅力を高め、SNSなどの情報発信とオープンキャンパスの内容充実を通じて、受験者増に繋げるべく努力したい。

生物学の用語で説明すると、令和5年度の高評価を「突然変異」で終わらせるのではなく、科技専に定着して形質が変化することを期待し、キーワードは「進化」とした。

## 重点項目

- 1 6S管理の徹底  
社会人マナーの指導
- 2 留学生の指導・支援の充実  
日本語能力の向上と全教員の留学生に対する指導力の向上
- 3 学生確保  
専門学校としての魅力の発信

## V (参考資料) 令和5年度教育活動方針に従った評価項目の達成及び取り組み状況

表の数字の、左欄は自己評価の平均値、右欄は肯定的人数（「4：適切」または「3：ほぼ適切」と答えた人数）の割合（%）を示す。また、（ ）内の数字は昨年度の値を示す。なお、数字左の記号で、○は平均値が0.2以上アップかつ割合が10ポイント以上アップ。△は平均値のみ0.2以上アップ。●は平均値が0.2以上ダウンかつ割合が10ポイント以上ダウン。▲は平均値のみ0.2以上ダウン。割合右の矢印で、↑は2年以上連続アップ、↓は2年以上連続ダウンを示す。

### 1. 6S管理の徹底

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	職員室（事務室も含む）の整理、整頓はなされている	△3.1 (2.9)	86.3% (82.7)
2	HR教室の整理、整頓、清掃はなされている	△3.0 (2.8)	78.4% (71.2)
3	実習工場（高柳）、実習室（昭和町）の整理、整頓、清掃はなされている	△3.1 (2.9)	80.0% (78.8)
4	授業（実習・座学）は学生が意欲を持って取り組む、わかりやすいものを目指して日々工夫をしている	△3.2 (2.9)	91.7% (82.4)
5	授業、校外研修等において、常に細心の注意を払い、事故のない指導を心掛けている	△3.4 (3.2)	97.9% (94.1) ↑
6	授業始業時、終了時のあいさつや授業態度の指導など、マナー、躰指導に継続的に取り組んでいる	△3.1 (2.9)	86.0% (78.8)
7	安全を意識した指導を徹底している	△3.5 (3.2)	100.0% (94.2)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・基本的に片付いているが、たまに雑然としている状況も見受けられるので、そうした際は迅速に整理整頓したい。

### 2. 専門教育の充実

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	教える内容を精査し、基礎・基本の定着を図っている	○3.3 (3.0)	97.8% (86.3)
2	個々の能力を伸ばすため、学生が主体的に学ぶ授業の工夫に努めている	○3.3 (2.9)	93.5% (78.4)
3	認定学科として、職業教育の充実に向けた取組が、計画通り進んでいる	○3.2 (2.8)	89.1% (76.0)
4	身に付けさせる能力について、学科教員との話し合いに努めている	○3.1 (2.7)	87.0% (66.7)
5	企業と連携した実習は効果的に行っている	△3.4 (3.0)	93.6% (86.0) ↑
6	企業と連携したインターンシップは効果的に実施できている	△3.2 (2.9)	85.1% (78.4)
7	目指す資格を明確に示している	△3.7 (3.4)	100.0% (96.1)
8	学科を挙げた組織的で徹底した指導を行っている	○3.3 (3.0)	93.8% (74.5)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・資格取得は合格率向上を目指して各学科組織的に指導ができていると思う。

・外部講師が受け持つ授業の講師については、本校卒業生を招くことを増やしてはどうか。学生により親近感を持ってもらえる。

### 3. 学生指導の充実（学科教員間の意思の疎通、家族や関係機関との連携）

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	あいさつの徹底（思いやりの心を育む）に努めている	△3.3 (3.1)	88.0% (84.3)
2	授業の工夫・改善に努め、学ぶ意欲の高揚を図っている	○3.1 (2.9)	91.7% (80.0)
3	真面目に授業を受ける指導を行っている	○3.1 (2.8)	89.6% (78.4)
4	個人面談や声掛けを大切にし、学生把握に努めている	△3.2 (3.0)	87.5% (80.8)
5	電話連絡や家庭訪問等で家族との連携を密にし、きめ細かい指導を行っている（進級率・卒業率 95%）	○3.0 (2.7)	83.3% (64.7)
6	禁煙指導や感染症の予防等の健康管理、気になる学生の支援に努めている	○3.0 (2.8)	80.0% (69.2)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・授業面、生活面とも学生一人ひとりに親身になって指導できていると思う。
- ・学校の活性化につながるので、あいさつを含め学生に声かけする場面をどんどん増やしたい。

### 4. 進路指導の充実（進路指導課と学科との連携）

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	就職指導の充実に向け、進路指導課と学科の連携ができている（内定率 100%）	3.2 (3.1)	83.7% (86.0)
2	企業訪問を積極的に行っている	2.5 (2.6)	47.9% (49.0)
3	一般教養の充実に努めている	△3.0 (2.8)	84.8% (78.4) ↑
4	ビジネス教養の充実に努めている	○3.1 (2.8)	88.9% (76.5) ↑
5	進路指導課と学科の連携を強化し、就職支援と卒業後の離職等も含めた動向確認に努めている	3.0 (2.9)	77.1% (80.4)
6	就職先企業や企業後援会、同窓会との連携を図り、卒業生の職場定着に努めている	2.8 (2.8)	64.6% (68.6)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・進路指導課と学科の連携がしっかり取れていると思う。
- ・社会人のマナーに関する講演会を定期的に行っているのは良い。就職後に役立つと思う

### 5. 留学生の指導・支援の充実（在学生の把握の徹底と卒業生の把握）

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	日本語能力向上に向けた組織的、計画的な指導に努めている	△2.7 (2.4)	58.7% (51.9)
2	進学指導の充実のため、ガイダンスや専門学科の授業見学が、組織的に行われている	○2.8 (2.5)	75.6% (55.8)

3	専門科目をわかりやすくするための指導方法の工夫がなされている	○3.0 (2.6)	81.4% (64.7)
4	就職に向けたガイダンスやインターンシップの実施が、組織的に行われている	○3.1 (2.8)	87.0% (70.0)
5	生活実態（出欠、アルバイト、宿舎等）の把握に努めている	△3.2 (2.9)	91.5% (82.4)
6	文化や言語の理解を深めるための研修が行われている	○2.4 (2.1)	44.7% (28.0)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・進学指導や就活指導が組織的に行われていると思う。
- ・留学生は母国を出て日本で頑張っている。支援体制をさらに整えたい。

## 6. 学生確保

評 価 項 目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	多角的な情報分析、計画的な高校訪問など、学生確保に努めている	○2.7 (2.3)	59.2% (46.2)
2	広報企画課と学科との情報交換を密にし、学科情報の効果的な発信に努めている	○2.6 (2.3)	57.1% (38.5)
3	オープンキャンパスの充実を図り、歩留まり率向上（65%以上）を目指している	○3.1 (2.6)	81.6% (63.5)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・少しずつ広報企画課と学科との連携が取れてきてはいるものの、もっと連携する必要がある。

## 7. 教職員の資質・能力の向上

評 価 項 目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	3回の面談（当初、中間、最終）等で意見交換ができて いる	3.1 (3.0)	82.4% (84.9)
2	校内教員研修や企業研修会等に積極的、計画的に参加 している	○3.1 (2.8)	80.0% (66.7)
3	公開授業、授業見学が計画的に行われ、授業改善に努め ている	○3.1 (2.8)	90.0% (71.2)
4	資質、指導力向上のため資格取得に挑戦している	○3.0 (2.7)	88.0% (71.2) ↑

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・授業見学は計画的なものに加え、抜き打ちでも行ってほしい。
- ・年に3回の意見交換の場があり、意見をしっかり聞いてもらえるのはとても良い。
- ・教員の資質向上のためには、教職員全体がもっとスキルアップしていく必要がある。